

〈研修報告〉

キャリアアップ講座に参加して

直方高校 鎌 田 聖 菜

令和六年八月六日（火）、福岡教育大学にてキャリアアップ講座が行われた。参加者は十名程度であった。

講座の内容は書道鑑賞力・実技力養成講座である。受講者の専門教科の資質、能力の向上を目的として行われた。内容は福岡教育大学が所蔵している名品の鑑賞、手紙の解説、手紙の揮毫、書道パフォーマンス鑑賞などについてであった。

福岡教育大学が所蔵する中林梧竹の作品を中心に鑑賞を行った。梧竹の作品を年代別に鑑賞していくと、その年代で学んでいた書風や学びの積み重なりを垣間見ることができた。

手紙の解説では、山本鏡山が書いた手紙と會津八一が窪田空穂に宛てた手紙の解説を扱った。作品（手紙）の形式を学びながら、揮毫された文字が何と書かれているのかを解説した。

手紙の揮毫では、前半に鑑賞したような先人の手紙を手本とし、巻紙に揮毫を行った。紙質や紙色、墨のにじみが異なる巻紙を数種類用意していただき、試した。和室で畳に座り、墨を磨り、心を落ち着かせて手紙を揮毫した。普段、和室で文字を書くことはなく、墨をじっくり磨りながら心を落ち着けて文字を書く時間を確保することができないことから、日ごろの喧騒を忘れて書に没頭する貴重な時間となった。先人の手紙を一通り揮毫したのちに、共通の文面を決め各自思うままに手紙を揮毫し

ていった。構成や平仮名と変体仮名、漢字の組み合わせにそれぞれの個性が出て、まさに十人十色という言葉がふさわしい学びの時間となった。書道パフォーマンス鑑賞では、書道パフォーマンス甲子園での高校生の演技を分析した。これまでの伝統的な書道と、現代の音楽やダンスを掛け合わせ表現していく書道パフォーマンスには様々な表現方法があり、様々な指導力が必要であると感じた。書道パフォーマンスに文化祭等で取り組む学校も多く、私の勤務校でも行っているためとても勉強になった。

本研修に参加し、改めて書道の深さとそのおもしろさを感じることができた。その一方で、普段、書道にじっくりと触れる時間の少なさを感じた。

末筆ながら、本研修をご指導くださった服部先生に心よりお礼申し上げます。